

授業科目 発達障害作業療法評価学演習

【担当教員名】 永井 洋一	対象学年	2	対象学科	作業
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

<一般目標：GIO>

発達障害に対する作業療法の評価が遂行できるように、正常発達に関する基礎知識と、それらの障害を評価するための知識を身につけるとともに、基礎的な評価の技術を習得する

<行動目標：SBO>

1. 対象児およびその家族と接するときに必要な態度を模擬的にとることができる
2. 発達評価を模擬的に実施できる（手引き書に頼ってもよい）
3. 運動・姿勢発達の評価を模擬的に実施できる
4. 微細運動の発達評価を模擬的に実施できる
5. 知覚・認知の発達評価を模擬的に実施できる
6. 心理社会的発達の評価を模擬的に実施できる
7. 日常生活活動・適応行動の発達評価を模擬的に実施できる
8. 正常発達の知識に基づいて仮説を立て、実際の子どもの様子を観察してレポートにまとめることができる

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーション、子ども・保護者との接し方	1	講義
2	発達全般の検査 (1)：JDDST, KIDS, 遠城寺式等	2	演習（グループ）
3	" (2)		
4	姿勢・運動発達の評価(1)：ミラニ=コンパレット等	3	"
5	" (2)：神経発達学理論		
6	微細運動発達の評価(1)：発達評価の項目抜粋	4	"
7	" (2)		
8	知覚・認知発達の評価(1)：フロスティック等	5	"
9	" (2)：グッドイナフ等		
10	心理社会的発達の評価：S-M社会性発達検査	6	"
11	" (2)：観察・面接、人間作業モデルの紹介		
12	日常生活活動・適応行動発達の評価	7	"
13	子どもの総合的評価と遊びを使った観察	全部	講義・演習
14	まとめ		講義・討議

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	作業療法学全書第3巻『作業療法評価法』	日本作業療法士協会	協同医書出版社	1999
	作業療法学全書第6巻『発達障害』	日本作業療法士協会	協同医書出版社	1999
参考書	『発達障害と作業療法』 岩崎清隆、三輪書店、2001			
その他の資料	授業中に資料を配付する			

【評価方法】 出席：10%，演習への積極的参加：20%，演習中の口頭試問：20%，観察レポート：50%	【履修上の留意点】 人間発達学の単位を取得していること。発達障害作業療法評価学と並行して開講するので、十分に関連づけて学習すること。 子どもを観察してレポートにまとめる課題を課す（授業中に説明）
--	---